

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	二戸市立仁左平小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	9
児童数	22	16	16	13	23	23	0	113	

研究の概要

1. 研究主題

<p>基礎・基本の定着と活用を図るための個に応じた指導の工夫 ～発展的・補足的な学習と重点指導領域の強化を通して～</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>実施学年 全学年 教科 算数</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校児童の実態から個に応じた指導が特に必要な教科であると考え、算数科に取り組むこととした。 各学年、あるいは低・中・高学年毎の発達段階における有効な発展的・補足的な学習の進め方を探るためと、算数科の学力の分析の結果から、定着を高めるために特に指導の工夫と強化が必要とされる領域あるいは単元を各学年にみられるために実施学年を全学年とした。
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「発展的・補足的な学習の取組方と重点指導領域の設定の仕方や指導の工夫はどうあればよいか」</p> <p>研究の見通し 児童が、それまでに身に付けてきた基礎的・基本的な内容を基にして、より広げたり深めたり進めたりする発展的な学習や、児童一人一人の理解や技能の定着の状況の違いに適切に応じ、児童が基礎・基本を確実に身に付けていけるようにする補足的な学習を取り入れたり、児童の学力を分析し、全体的に理解や定着が低い傾向にある領域あるいは単元を学年毎の重点指導領域として設定して、指導の工夫・改善を図り強化したりすることによって、基礎・基本の定着と活用を図るための個に応じた指導ができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 個に応じた指導の充実を図る観点から、基礎・基本を広めたり深めたり進めたり、あるいは確実に身に付けたりするための発展的・補足的な学習に取り組む。 児童の学力の状況を分析し、本年度の重点指導領域あるいは単元を明らかにして、指導の工夫・改善を図る。 担任と教頭・教務の担任外によるチーム・ティーチングや少人数指導に取り組む、指導体制を工夫する。 「学校いきいきプラン推進員」を活用し、個に応じた指導の強化を図る。
--------	--

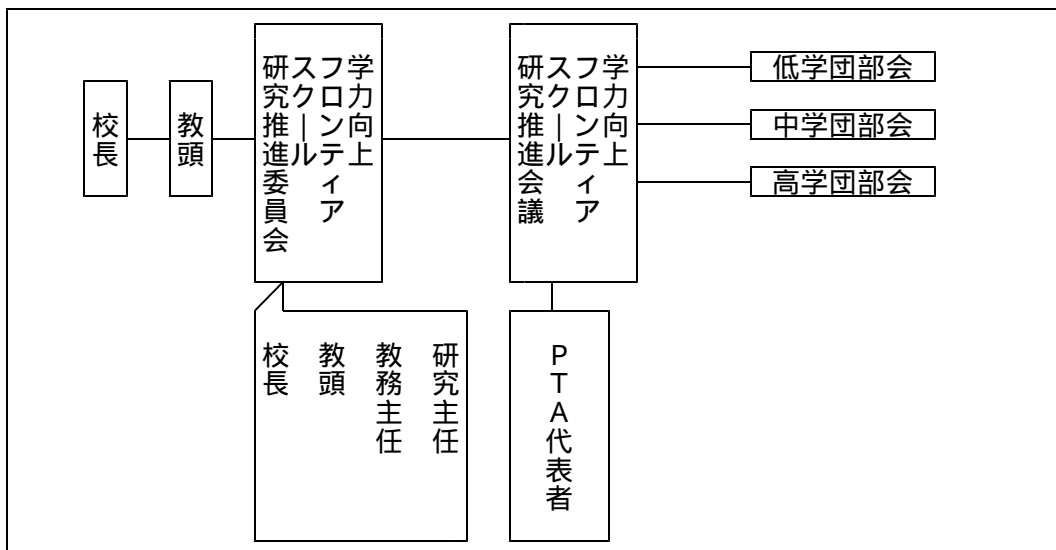
平成16年度	<p>テーマ 「児童が意欲的に取り組む発展的・補足的な学習と重点指導領域の効果的な指導はどうあればよいか」</p> <p>研究の見通し 児童の興味・関心をくすぐり、進んで取り組もうとする発展的・補足的な学習の教材研究・開発を行い、指導計画に位置付けて計画的に取り組むことや、本年度の重点指導領域あるいは単元を明らかにし、児童のつまず</p>
--------	--

きの予想を基に効果的な指導計画を立てることによって基礎・基本の定着と活用を図るための個に応じた指導ができるであろう。

研究の内容・方法

- 1 児童が、意欲的に取り組める発展的・補足的な学習の教材研究・開発を進める。
- 2 発展的・補足的な学習を単元の指導計画に位置付ける。
- 3 評価カードを活用して、児童一人一人の基礎・基本の理解や定着の状況を把握し、補充する。
- 4 本年度の重点指導領域あるいは単元を明らかにして、児童のつまづきを予想した手立てを行い、指導の工夫・改善を図る。
- 5 指導体制を工夫して、担任と教頭・教務の担任外による TT 指導や少人数指導を一層推進する。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 取組に当たっての主な留意点

発展的・補足的な学習の取組について

ア 小学校高学年における選択学習、中学校の選択教科の学習、高校の選択履修という自己の適性を判断して進路の決定をしていく一連の展開を考えると、小学校低学年の学習はその基礎的な経験の場として位置付けられ、それまでの自分の学習を振り返って、自分の学習課題を見付けようとする態度を育てていく必要がある。発展的・補足的な学習に分かれて学習する際は、低学年から児童一人一人の選択を重視した。

イ 発展的・補足的な教材を開発するに当たっては、スモールステップにする、操作的活動を取り入れる、計算したりすることを楽しむゲーム等を開発する、日常生活の中から算数を活用する場面を取り出して教材化するなどの視点で工夫した。

ウ 学級が発展的・補足的な学習に分かれて行った場合は授業後にそれぞれのコースの学習資料を教室に掲示したり、休み時間などに別コースの教材に触れられるように配慮した。

重点指導領域の設定と指導の強化の取組について

ア 重点指導領域の設定に当たっては、例えば、第2学年の昨年度のCRT結果を分析すると、「量と測定」領域が得点率81.3%（内容は「長さ・得点率81.3%」）と、他領域と比較すると低く、また、本年度の児童の実態からも「量と測定」「長さ」を重点的に指導する領域・単元の1つとした。

イ 児童一人一人が算数的な活動を通して、基礎・基本の確実な理解と定着ができるよう指導形態の工夫を行った。単元中における、授業のめあてや内容に応じて、担任による一斉指導の他、少人数指導や TT 指導を取り入れた。少人数指導や TT 指導を行うに当たっては、児童一人一人の学習内容の理解や技能の習熟の様子などについて、各指導者が個人表に記入し、個に応じたきめ細やかな指導ができるように配慮した。

(2) 成果

「発展的・補足的な学習」に対する意識調査を全校児童対象に行った結果、「よい」(86.2%)「ふつう」(13.8%)「よくない」(0%)で、学年概ね「よい」とする傾向にあった。(参照：資料1) その主な理由としては、「算数的なゲーム(計算ゲームなど)が楽しい」「(計算などの)勉強ができるようになった」「生活に役に立つ勉強ができる」「いつもの勉強の仕方が変わったり、いつもと違う勉強ができておもしろい」「いろいろな問題にチャレンジできる」「やり方がよくわかる」「活動する時間が多いので勉強したことがよく分かる」「担任以外の先生とも楽しく学習できる」などを挙げている。

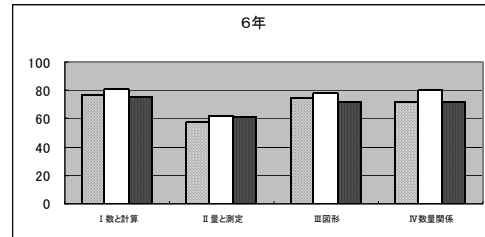
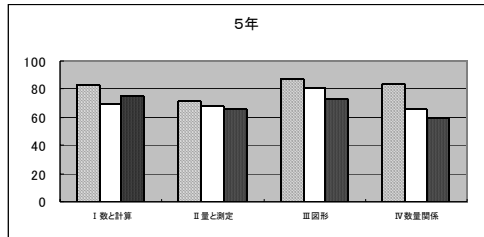
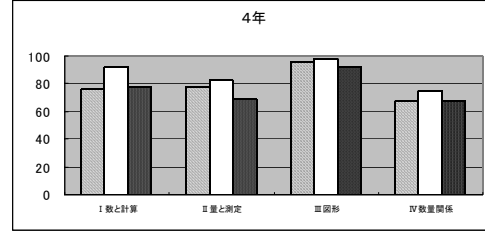
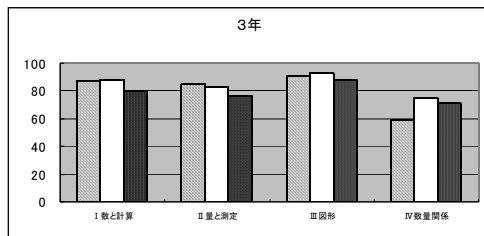
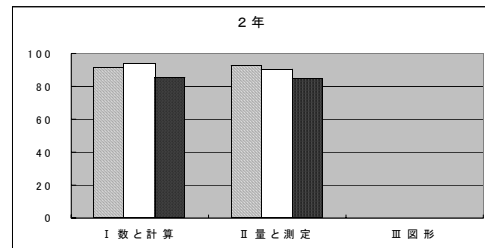
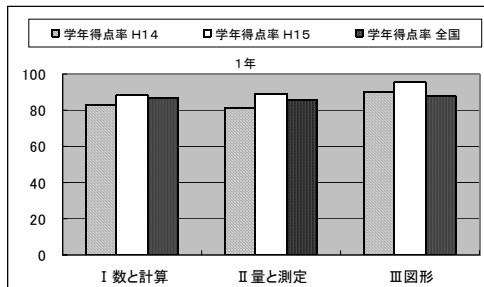
調査結果を分析してみると、「発展的な学習」においては、それまでに身に付けた基礎的・基本的な内容を基にして、教科書にない問題に取り組むことが、児童の好奇心をくすぐり知的な面白さ、満足感、成就感を感じさせた。

「補足的な学習」においては、ただ単にドリル的な学習をするのではなく、児童が楽しく意欲的に取り組みながら基礎的・基本的な内容が身に付くように教材研究・教材開発した結果、「分かった、できるようになった」という感想につながった。

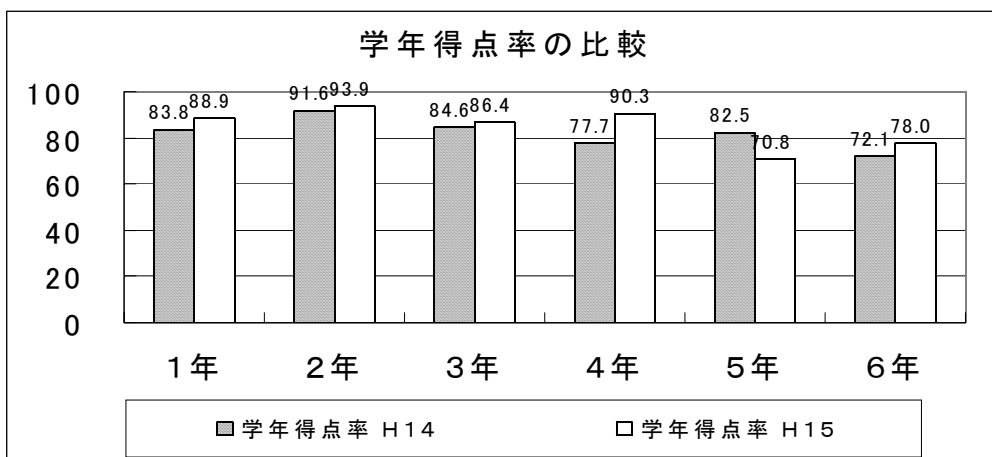
「発展的・補足的な学習」に取り組む場合は、それぞれのコースが、どんなめあてで、どんな学習をするかを児童に具体的に示したり、選択の際には、教師が相談にのるなど配慮した結果、児童は、自分がやって力をつけたいコースを主体的に選択できるようになってきた。

「重点指導領域」の学習では、時間的な調整をしながら指導体制の工夫に取り組み、担任と教頭や教務でチーム・ティーチングや少人数指導を取り入れた結果、より個に応じた指導を行うことができた。特に学習内容の理解や技能の習熟などに効果的で、例えば「第2学年 長さをはかるう」単元テストでは、学年平均点91点(全国平均80点、)、「第3学年 重さをはかるう」単元テストでは、学年平均89点(全国平均81点)であった。本年度実施したC R Tの結果では、領域別学年得点が、前年度の本校や本年度の全国のものより殆ど上回った。(参照：資料1)

	1年			2年			3年			4年			5年			6年		
	H14	H15	全国	H14	H15	全国	H14	H15	全国	H14	H15	全国	H14	H15	全国	H14	H15	全国
I 数と計算	83.2	88.3	86.9	91.4	93.9	85.2	87.8	88.7	80.4	75.9	91.6	77.8	83.3	69.9	74.9	76.2	81.3	75.8
II 量と測定	81.3	89.1	85.8	92.7	90.6	84.8	84.6	82.6	77.1	77.8	83.2	68.7	71.4	67.8	65.9	57.4	61.8	61.0
III 図形	90.6	95.5	87.7				91.0	92.6	88.5	95.2	98.0	91.7	87.9	80.9	73.6	75.0	78.8	72.3
IV 数量関係							58.5	75.0	71.3	68.1	74.9	68.3	83.7	65.9	59.8	72.2	80.4	72.0



本年度、学力向上を図る工夫・改善に取り組んだところ、昨年度と本年度の CRT の結果を同学年で比較すると、得点率では、第 1 学年が 83.8 % → 88.9 % ()、第 2 学年が 91.6 % → 93.9 % ()、第 3 学年が 84.6 % → 86.4 % ()、第 4 学年が 77.7 % → 90.3 % ()、第 5 学年が 82.5 % → 70.8 % ()、第 6 学年が 72.1 % → 78.0 % () と殆どの学年が向上した。(参照：資料 2)



日常的に「学校いきいきプラン推進員」と担任の連絡を密にし、算数の時間の活用の仕方を工夫した結果、授業の効率化や、つまずきのある児童に対する効果的な支援が図られた。

2. 今後の課題

「発展的・補足的な学習」の教材研究・開発を進める。
 ⇒児童が算数の有用性を感じ、意欲的に取り組めるような教材研究・開発など
 重点指導領域の効果的な指導計画を立てる。
 ⇒児童のつまずきを予想した手立てなど

学力等把握のための学校としての取組

- ・ CRT などの全国標準学力テストや単元テストなどの結果を分析する。
- ・ 発展的・補足的な学習の授業実践を積み重ね、研究会を通して研修を深め検証する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 【平成 15 年度の取組】
- ・ 平成 15 年 7 月 11 日 第 1 回学力向上フロンティアスクール研究推進会議 (本校：PTA 代表者) 本年度の計画
 - ・ 平成 15 年 11 月 6 日 第 2 回学力向上フロンティアスクール研究推進会議 (本校：PTA 代表者) 「発展的・補足的な学習」授業研究会
 - ・ 平成 15 年 2 月 9 日 第 3 回学力向上フロンティアスクール研究推進会議 (本校：PTA 代表者) 本年度の課題と来年度の方向性
 - ・ 平成 16 年 3 月 4 日 PTA 理事会 (本校：PTA 役員) 「学力向上フロンティアスクール」の取組他
- 【平成 16 年度の取組】
- ・ 学力向上フロンティアスクール研究推進会議を開催する。
 - ・ 他校へ本校授業研究会の案内をする。
 - ・ 本校の取組についての通信を発行する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無